

# 小諸いろいろ農園

2013年4月  
第2号

小諸の冬を初めて過ごしましたが、想像以上の寒さでした。積雪量はさほどではありませんが、標高650mの内陸性気候のため寒暖差が大変厳しく、厳冬期の最低気温が氷点下15℃を記録した日もあります。寒さだけを例えれば、北海道並みです。大地が凍てつき屋外での農作業はできません。

## 春

がこれほど待ち遠しく思ったのはこれが初めてです。いよいよ

3月20日「春分の日」に露地トマトの種蒔を行いました。今年のは1000株分。一粒づつピンセットで丁寧に蒔きます。早いのは3日後あたりから芽を出します。一斉に出揃うのが理想ですが。



これから5月中旬までの間は苗作りの期間で、ハウスの中で大事に育てます。愛情いっぱいに手間をかけるのは「赤ちゃん」と同じですね。そして徐々に外の環境に慣らしながら露地畑に行く訳です。どんなトマト畑になるのか、今から楽しみです。

このトマトは、東都生協から「久保産直会・高原露地トマト」の名称で皆様にお届けします。ご購入に関するお問い合わせは「東都生活協同組合」までお願いします。 ☎0120-831-474

## 私

たちの様に脱サラして新規に農業を営むには、畑や田んぼなどを

借りないとなりません。農業従事者が年々減少して耕作放棄地が増えているという話題はよく聞かれると思います。ならば簡単に借りられるのではと想像できますが、そう簡単ではないのです。トマトの種蒔をしたハウスのある畑は、

ここ数年間は手を入れていない荒地でした。その為、まずは背丈ほど伸びた枯草を刈る事から始めなければなりません。刈っては燃やしを繰り返しながら、ようやく中に足を踏み入れる事が出来たら今度は骨組みだけ残ったハウスの修復です。この様に野菜を栽培するだけが農家の仕事ではなく、大仕事の様な事もしないといけません。百姓とは百の姓（仕事）を持った者だとはよく言ったものです。

## TPPと国産品

安倍首相はTPP交渉への参加を表明しました。農業従事者の多いこの地域では、大変関心の強い話題です。海外の安い農産物が入ってきたら日本の農業は壊滅的になるという不安です。しかし本当にそうでしょうか。加工食品の原料となる大豆などは現在でもほとんどが輸入品ですが、採れたての生鮮品が輸入品に取って替わることが出来るでしょうか。それは消費者の考え次第だと思えます。農産物だけに限らず、国産品を愛用することで文化が守られ、本当の意味で独立した国と言えるようになるのではないのでしょうか。